

読売新聞社（担当デスク）からの回答は、以下の通りです。

~~~~~

・私は「家計の知恵」面の企画立案とデスクを担当している編集委員なので、  
筆者に代わって今回の件について、わが方の姿勢をお知らせします

・まず、ご指摘の内容についてですが、これは藤井さんの意見であり、この意見に賛同とまでは行かなくても、十分に理解できると判断したので、その内容を掲載しました

・冷食や外食と、家庭で作った食事の脂肪量がどう違うか、平均値をそれぞれ取った資料などは恐らくないでしょうから、科学的に解明するのは、ちょっと困難かと思います

・ただ、コンビニ、冷凍食品、外食などをとり過ぎると、高脂肪になる、といった指摘は、私自身が弊社診療所医師から指摘を受けた経験もあるので、一般的にこうした意見は世の中に受け入れられているものと考えます

・正確に言えば、今回の記事も、「外食や冷凍食品の中には脂肪が高いものもあり、低いものもある。高いものもあるので、一般的に言えば、高いタイプをとり過ぎると、健康的に良くない」などと、書いた方がいいのかもしれませんが、そう書いた、そう逃げを打っても、読む人は、ああ外食などは高い脂肪なのだ、と読むだろうし、あまり効果は変わらないと考えます

・さらに、前述のような長い「」の文面は使えません。さらに現行の主題は、朝食や夕食をどうとったらいのか、という話なので、なおさら、さらっと説明したいところです

・こうした判断で、結論的には、今回の記事に、今後、修正を加える気持ちはありません

・ただし、家計の知恵面は日本の新聞の中で、唯一、食品をはじめ、詳しい商品紹介を連日、消費者向けにしている面（日経のは業者向けです。各紙の生活面では、具体的に何をどこで買ったらいのか分かりません）です。冷凍食品に関しても、中身が進化しているという特集や、こう一工夫すれば、こんな新料理になる、といった記事を載せた記憶があります。

・今後も優れた商品に関しては積極的に購買意欲をそそるような書き方で読者に紹介して行きたいと考えておりますので、どうか、ご理解、ご支援を願います

以上